

県酪だより

K E N R A K U D A Y O R I

2017

1

vol.229



年頭の挨拶

福島県酪農業協同組合

代表理事組合長

宗 像 実



謹んで新年のご挨拶を申し上げます。

日頃、組合事業にご支援・ご協力を頂いておりますことに対して、厚くお礼申し上げます。

さて、東日本大震災並びに東京電力福島原子力発電所事故からすでに五年十カ月が経過しましたが、本組合の四九戸の酪農家は未だに避難休業を強いられております。

昨年は、七月に南相馬市小高区の避難解除準備区域の帰還が実現され、今年三月には川俣町山木屋地区と飯館村、浪江町の帰還が計画されておりますが、牧場再開への道のりはまだまだ遠く厳しい状況であります。

また、県内すべての酪農家におかれましても、生乳の放射性物質検査や自給飼料生産の制限などが継続されており、カリ過剰による乳牛の健康被害も発生するなど、酪農家の精神的・経済的負担は軽減することなく、酪農生産基

盤に甚大な被害をもたらしています。この様な中で、昨年スタートを切った復興牧場「株式会社フェリスラテ」は、乳量出荷から一年が経過し、順調に出荷乳量を伸ばしており、組合の生産乳量も前年を上回って推移しています。

今後も、本組合の重要な事業と位置付け、支援してまいりますので、これからも組合員の皆様方をはじめ、行政・関係機関各位のご支援・ご協力を賜りますようお願い申し上げます。

世界では、グローバル化への反発や移民問題等により、貧富の格差への不満、保護主義の台頭などにより、イギリスのEU離脱やトランプ氏が米国次期大統領に選任されるなど、流れが大きく変わる出来事が次々に起こっており、TPP協定においても衆議院で可決されたものの、その先行きは不透明になってきています。

国内では、規制改革推進会議がJA全農改革や指定生乳生産者団体制度の抜本的改革について提言がなされ、生乳の全量委託廃止や補給金交付対象の見直しなどが示されました。

これに対し、JA全中や中央酪農会議等の関係団体は強く反発し、受け入れられないとの考えを自民党に伝え、農林関係合同会議の協議を経て、条件付きでの部分委託容認や補給金交付対象の拡大などの指定団体改革を、改訂版「農林水産業・地域

の活力創造プラン」として正式決定しました。

これらの新たな制度運用を実施するにあたり、具体的な条件やルールに関しては、政府・与党と関係者でさらに協議することとなっております。具体的な運用の姿は先送りとなりましたが、その姿はますます不透明になってきています。

本年は、組合が推進中の「第六次中期経営三カ年計画」の最終年、仕上げの年であり、酪王乳牛(株)・(株)らくのう乳販との連携を密にし、将来に亘り組合員の負託に応え得る組織として積極的に事業を展開する所存であります。

本年も福島県酪農の力強い発展のため、ご指導・ご鞭撻の程よろしくお願い申し上げますとともに、組合員の皆様にとって幸多い年であり、新年をお祈り申し上げ、新年のご挨拶と致します。



新年を迎えて

福島県農林水産部

部長 小野 和彦



謹んで新年のごあいさつを申し上げます。

皆様には、日ごろより本県酪農・乳業の生産振興を通じて、県勢の発展に御尽力いただき、深く感謝を申し上げます。また、安全・安心な生乳を生産するため、貴組合員の一人一人が、日夜、細心の注意を払い、愛情を込めながら乳用牛の飼養管理をされるなど、そのたゆまぬ御努力に心から敬意を表します。

昨年四月からスタートした「復興・創生期間」という新たなステージに入り、避難指示解除に伴う営農再開に向けた動きが活発化するなど、皆様とともに復興に向けた取り組みを推進し、着実に復興への歩みを進めてまいりました。



一方、酪農を巡る情勢は、過去に類をみない水準での初妊牛価格の高騰や乳用牛への黒毛和種交配率の上昇など、生産基盤の弱体化が懸念されており、

このような中、貴組合におかれましては、高能力乳用雌牛や性別別受精卵の導入に積極的に取り組まれるとともに、適正乳価の維持及び生乳の安定供給に努められるなど、生産基盤の回復と経営安定に向けた取り組みは、本県酪農振興にとって大きな励みとなっております。

また、婦人部やまびご会におかれましては、食育活動や環境美化活動を通して県畜産業に活力を与えていることが高く評価され、第五十七回福島県酪農賞を受賞されました。本県酪農や牛乳・乳製品の魅力を伝え、生活に活力を与える女性酪農家の活動は、力強い復興を成し遂げていくための道筋を明るく照らし続けられており、長年にわたる

御活躍・御尽力に対し、改めて敬意を表します。

県では、「いのち」を支え、未来につながる新生ふくしまの「食」と「ふるさと」を目標に掲げる「ふくしま農林水産業新生プラン」に基づき、生産基盤の回復や生産性の効率化等を積極的に支援してまいります。本県の豊かで魅力ある農林水産業を創造し、持続的に発展を続ける誇りあるふくしまを若い世代に引き継いでいく考えであります。

また、避難・休業を余儀なくされている酪農家の皆様、帰還後に安心して経営を

新年のご挨拶

日本酪農政治連盟福島県支部連合会

会長 佐藤 金正



輝しい平成二十九年の新春にあたり心から御祝を申し上げます。

再開できるよう、生産現場における課題を迅速かつ的確に捉え、総合的な視点から対策に取り組み、復興の流れを加速してまいりますので、皆様の御理解と御協力をお願いいたします。

結びに、皆様におかれましては、直面する課題を乗り越え、本県酪農の復興と再生のため、持てる力を存分に発揮していただきますよう御期待申し上げますとともに、今後の益々の御発展と御多幸をお祈りいたしまして、新年のあいさついたします。

また常日頃から会員の皆様には暖かい御支援、御理解のもと酪農政治連盟活動に御協力をいただいておりますことに御礼を申し上げます。

さて、酪農界にとりまして、当面最大の課題でありました「TPP」への対応に対しては、全力を尽くして参ります。



たが、米国の新大統領トランプ氏の発言により先が見通せない状況にあります。

しかしながら国においては、状況変化に対応した様々な政策を計画し、クラスター事業を始めとし、丸キンへの九割対応や液状乳製品等への補給金単価の一律化と単価アップ（kg当り一〇・五六円三五〇万tの原案）へ向けて、組織一丸となってその実現へ取り組んでいるところであります。

また一昨年から政府が規制改革推進会議の名のもとに取り組んでおります販売手数料や、生産資材、飼料、肥料、薬品、その他のコストダウンによる農家の収益向上に向けた考え方については、生産者そして、組織が一体となって前に進まなければならないと考えます。

さらに私共指定生産者団体のあり方、取りわけ集送乳経費の引き下げや、組織の改革もまた、当然の課題であります。これらは現在、全国のブロック毎に精力的に取り進むこととして、東北ブロックにおいても昨年十二月二十七日に第一回の会議をスタートいたしました。組合員及び組合

組織等が共に持続的に酪農が前進できるあり方を求めて、全力で取り組みますので、会員皆様の御理解と御協力をお願い申し上げます。

新年を迎えて

全国酪農業協同組合連合会 仙台支所

支所長 佐藤 弘



謹んで新年のご挨拶を申し上げます。
日頃より全酪連の各事業に特段のご配慮、ご協力を賜り厚くお礼申し上げます。

個人的な話で恐縮ですが、昨年、福島県内の国道六号線を北上して、楢葉、大熊、双葉、浪江と四つの町を通過する機会がありました。南北に走る六号線以外はバリケードやガードマンが立ち町には入れない状態でしたし、家々は地震の被害を受けたまま雑草が生い茂り、空き地には放射

そして、会員皆様にとりまして、すばらしい一年でありました。新年のあいさつといたします。



性廃棄物が黒いビニールにつつまれて累々と横たわっていました。五年たっても問題は残ったまま、当然酪農に対する影響も色濃いのだと、あらためて肝に命じた次第です。

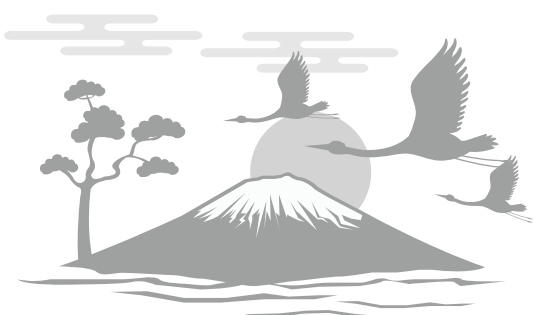
そのような状況下にあっても貴組合におかれましては、一昨年より立ち上げた復興牧場(株)フェリスラテが順調に軌道に乗られて乳量を伸ばし、生産基盤回復の中心となっている他、新たに浜・山木屋地区等での自給飼料生産や育成牛の飼養を目指し、コントラクターの立ち上げに取り組みされていることと等、福島の新たな酪農ビジョンに向かって邁進されていることにつきまして、改めて敬意を表するとともに、福島酪農復興(株)に対し、弊会としても引き続き全面的

にバックアップしていく所存です。

さて、昨年は、酪農を取り巻く環境に大きな影響を与え、国内・国外での競争に勝ち抜くために提出されたのが規制改革推進会議の提言であり、最終的に自民党において包括的にまとめられ「農業競争力プログラム」として示されました。問題の指定団体制度は、補給金をすべての生産者に支給することや、生産者が自由に出荷先を選べるよう部分委託を容認する等がその内容となっております。両方とも年間の販売計画の作成や部分委託の場当たりの利用とならないようなルールの作成が、今後行われる予定となっております。過当競争の末に乳価交渉力の低下を招いた過去の経験をしつかり踏まえた上で、酪農が栄える改革となるよう引き続き注視していく必要があります。

混乱する状況において必要なのは団結力であり、酪農にはもともとその力があります。そして、どんな状況下においても組合員の皆様が安心

して搾っていただく環境を作ることが弊会の組織使命であります。自己改革努力を怠らず、政策実現に向けての取組や酪農青年婦人女性会議活動を通じての理解醸成活動、そして何より地域に根ざし、酪農の現場に寄り添い、皆様と共に、酪農経営向上のため尚一層努力して参る所存です。今後ともご協力の程よろしくお願い申し上げます。



福島県酪婦人部やまびこ会

第57回福島県農業賞受賞祝賀会を開催しました



平成二十八年十二月二日
 (金)午前十一時三十分から郡山
 ビューホテルアネックスにおい
 て標記祝賀会を開催しました。
 発起人である宗像組合長
 の挨拶で始まり、衆議院議員
 根本先生の祝辞、農林水産部
 の二瓶次長祝辞等がありま
 した。歴代の会長も出席して
 いただいで、賑やかな祝賀会
 でした。
 宴会が始まると酪王乳業の
 TVCMを歌っているMANA
 MIさんが登場し、自身書き
 下ろしの「HAPPY 酪王カ
 フェオレ」等を歌って場を盛り
 上げてくれました。関係者の
 皆様おめでとうございます。

福島県酪婦人部 やまびこ会

牛乳料理セミナーを開催しました



講師の料理家・管理栄養士 小山 浩子先生、郡山女子大学短期大学の学生さん、郡山市食生活改善推進員協議会の皆さんが参加しました。

去る十二月九日(金)県酪婦人部やまびこ会(会長 中瀬 明美)は、牛乳の正しい知識と食生活改善に寄与する目的で、牛乳料理セミナーを郡山女子大学に於いて開催しました。

料理家・管理栄養士 小山 浩子 先生を講師にお迎えし、郡山女子大学短期大学の学生さんと郡山市食生活改善推進員協議会にも参加をいただき、「和食と牛乳のしあわせな出会い 乳和食 健康寿命一〇〇歳を目指して!」と題した講演と、「カッテージチーズを使った乳和食レシピ」三品の調理実演をしていただきました。

栄養面では優れている和食も、唯一ミネラル不足が気になるのですが、牛乳を使用する「乳和食」献立にしていくことで改善され、最強の食事になっていくことを若い方々にも知ってもらうことが出来たと思います。学生さんは将来管理栄養士となり、様々な職場で今回の講演を活かし、牛乳を使用した健康指導をしていただきたいと思いました。一〇〇歳以上の人が毎日飲んでいるものは、一位「緑茶」二位「牛乳」で、牛乳は認知症予防に良くて、毎



講演と調理実習それぞれ、参加者は真剣に話を聴いていました。和食では補いきれないミネラルを摂取できる「乳和食」、普段の食事から取り入れられそうです。



和やかな雰囲気で行われました♪



〈カッテージチーズを使った乳和食レシピ〉

- 左手前：魚の味噌チーズホイル焼き
…今回は生鮭で調理。鶏肉でもOK。
- 右手前：枝豆入りチーズがんも
…ホエー・めんつゆのたれをかけると更においしい。
- 奥：きのこのくるみ白和え
…電子レンジで下ごしらえ出来る。水分が出てしまうので食べる直前に和える。

日摂取すると健康寿命が延びる食品でした。

実演のレシピは、減塩しながらも牛乳のうまみ成分で美味しい料理になり、試食の「枝豆入りチーズがんも」は、粗めに刻んだ枝豆の食感とふわふわがんもの相性もよく美味しく仕上がりました。

ホエー・めんつゆ・水溶性片栗粉で作ったたれをかける、さらに美味しくなり、おつまみにもいいなと思いました。ミルクマジック☆5で健康寿命一〇〇歳をめざして、これからも家族への食事を作っていきたいと思いました。

今年度のやまびこ会牛乳の消費拡大事業として、昨年度に引き続き「カッテージチーズ」をテーマにセミナーを開催し、「市販の牛乳でも、必要な量だけ簡単にカッテージチーズが作れます。」という事を消費者へ紹介しました。今後も消費者へのPR活動を展開していきたいと思えます。



平成
28
年度

第二十七回



ミルキー図画コンクール

審査結果発表



本年度開催のミルキー図画コンクールにも幼稚園（年少・年長）の部、小学校（低学年・中学年・高学年）の部、合わせて一、二、三九作品ものご応募を頂くことができました。多数の作品の中から今回、最優秀賞（各部門一名・計五名）、優秀賞（各部門二名・計一〇名）、優良賞（各部門七名・計三五名）を選出させていただきました。

審査委員長に福島市立御山小学校校長の阿部 正明様と審査員に県畜産課 吉田様、本会会長の二名にて、十一月二十八日に福島県庁正庁にて部門ごとに厳正なる審査を行いました。

審査員は選ぶのに毎年たいへんご苦労されておりますが、やはり子供らしく元気が伝わってくるような作品が選出されていきました。この度全五〇作品の中から最優秀賞を受賞された児童・生徒の通園通学

する、相馬市立八幡幼稚園・同大野幼稚園と郡山市立桜小学校に直接訪問し表彰式を行いました。保護者も参加されて作品と一緒に記念写真を撮り、とても喜んでいただけただろうで、思い出を一つプレゼントできました。

入賞された全五〇作品は、平成二十九年二月一〜五日に福島市コラッセふくしま一階アトリウムと、郡山市モルテイ一階展示スペース（日時未定／調整中）にて展示いたしますので、ぜひ足をお運びくださいませ（郡山会場の開催日時は追って県酪農協HPにてご案内申し上げます）。

最後に、このようにたくさんのお応募を頂くのは二十七年に及ぶ歴史と実績の賜物と、継続して開催できたことに関係者一同改めて感謝申し上げます。

最優秀賞受賞作品と受賞者は下記ページのとおりです。



相馬市立大野幼稚園にて



審査の様子



郡山市立桜小学校にて



相馬市立八幡幼稚園にて

幼稚園の部（年長組）

褒賞	幼稚園名	年齢	氏名
最優秀賞	多田野幼稚園	5才	橋本 萌生（はしもとめい）
優秀賞	相馬市立大野幼稚園	5才	渡辺 凜時（わたなべりん）
	多田野幼稚園	6才	笹山 愛菜（ささやまあい）
優良賞	会津慈光第二幼稚園	6才	榎田 武流（えのきだたけ）
	会津慈光こども園	6才	若林 蘭（わかばやしらん）
	相馬市立飯豊幼稚園	5才	前川 渚（まえかわなぎさ）
	多田野幼稚園	6才	橋本 翔真（はしもとしょうま）
	相馬市立大野幼稚園	5才	中尾心乃花（なかおこのか）
	相馬市立磯部幼稚園	5才	石橋瑠美華（いしばるみか）
	岩代幼稚園	5才	齋藤 凱斗（さいとうかいと）

幼稚園の部（年少組）

褒賞	幼稚園名	年齢	氏名
最優秀賞	相馬市立八幡幼稚園	4才	山野邊光明（やまのべこうめい）
優秀賞	相馬市立飯豊幼稚園	4才	石川 偉琉（いしかわたける）
	ひまわり保育園	4才	井上 愛唯（いのうえめい）
優良賞	岩代幼稚園	4才	三浦 友香（みうらともか）
	相馬市立日立木幼稚園	4才	村上 琉大（むらかみりお）
	相馬市立日立木幼稚園	4才	青田 歩美（あおたあゆみ）
	岩代幼稚園	4才	菅野 琉惺（すがのりゅうせい）
	会津慈光こども園	4才	大竹百々花（おおたけももか）
	ひまわり保育園	3才	鈴木 梨紗（すずきりさ）
	にわさか保育園	4才	渡邊 巨輔（わたなべこうすけ）

小学校の部（高学年）

褒賞	小学校名	年齢	氏名
最優秀賞	会津若松市立日新小学校	6年	松田 香凜 (まつだかりん)
優秀賞	会津若松市立城北小学校	5年	渡部 夏帆 (わたなべかほ)
	郡山市立桜小学校	6年	五十嵐琉音 (いがらしるな)
優良賞	郡山市立桜小学校	5年	鈴木倫太郎 (すずきりんたろう)
	いわき市立平第五小学校	5年	金澤 想 (かなざわこころ)
	喜多方市立第二小学校	6年	石原 雄大 (いしはらゆうだい)
	白河市立白河第二小学校	5年	宗像 将斗 (むなかたまさと)
	郡山市立富田東小学校	6年	大竹 流風 (おおたけはやて)
	会津若松市立松長小学校	5年	天野 心愛 (あまのここみ)
	郡山市立行健小学校	6年	本田 もも (ほんだもも)

小学校の部（低学年）

褒賞	小学校名	年齢	氏名
最優秀賞	郡山市立富田西小学校	2年	吉田 結生 (よしだゆうき)
優秀賞	喜多方市立第二小学校	2年	野辺 隆晴 (のべりゅうせい)
	いわき市立小名浜第二小学校	2年	小野 莉桜 (おのりお)
優良賞	いわき市立小名浜第二小学校	2年	安田 葵 (やすだあおい)
	いわき市立小名浜第二小学校	2年	江上 夏稀 (えがみなつき)
	いわき市立小名浜第二小学校	2年	佐藤 綾奈 (さとうあやな)
	郡山市立富田東小学校	2年	前林里央梨 (まえばやしりおな)
	郡山市立富田東小学校	2年	齋藤 春果 (さいとうはるか)
	白河市立白河第二小学校	2年	星 心花 (ほしこはな)
	郡山市立大成小学校	1年	渡部 杏奈 (わたなべあんな)

小学校の部（中学年）

褒賞	小学校名	年齢	氏名
最優秀賞	郡山市立桜小学校	3年	七海 柚芭 (ななうみゆずは)
優秀賞	埴町立笹原小学校	4年	本多 飛香 (ほんだあすか)
	郡山市立富田東小学校	4年	伊丹 真菜 (いたみまな)
優良賞	郡山市立富田東小学校	3年	佐藤 悠斗 (さとうゆうと)
	喜多方市立第二小学校	3年	岩下 実莉 (いわしたみり)
	会津若松市立松長小学校	4年	皆川 綺花 (みなかわあやか)
	郡山市立行健小学校	4年	本田 くに (ほんだくに)
	桜枝岐村立桜枝岐小学校	4年	星 美里 (ほしみさと)
	湯川村立勝常小学校	4年	片桐 乃愛 (かたぎりのあ)
埴町立笹原小学校	4年	神永 千夏 (かみながちなつ)	



● 幼稚園の部（年少組）4才 山野邊光明 ●



● 幼稚園の部（年長組）5才 橋本 萌生 ●



● 小学校の部（低学年）2年 吉田 結生 ●



● 小学校の部（中学年）3年 七海 柚芭 ●



● 小学校の部（高学年）6年 松田 香凜 ●

東北酪農青年
女性会議主催

平成二十八年度
秋季酪農研修会が福島県にて開催!!



東北各地より、たくさんの方が参加しました。



『フィステル牛のルーメン(第一胃)内観察』
直接、ルーメン内部を見たり、手を入れて触るなど、貴重な体験を
させていただきました。



十一月十六日(水)〜十七日(木)に東北酪農青年女性会議主催の平成二十八年度秋季酪農研修会が、福島県石川郡石川町の母畑温泉「八幡屋」にて、東北各地から九〇名が参加し開催されました。

一日目の講演会では、全酪連購買部酪農技術研究所猪内勝利氏に「哺育・育成を再確認」と題し、全酪連の若齢預託事業について、子牛の強化哺育に関すること、施設の概要・管理について、哺乳ロボットでの管理などについて、講演頂きました。改めて、生後二カ月までの飼養管理において、乳牛の健康や産乳能力に影響を及ぼすことを再度、確認することができました。さらに、全酪連購買部酪農技術研究所 所長 山口 巡氏より、二日目の視察先となっている全酪連酪農技術研究所についての概要並びにフィステル牛の観察、若齢預託事業の関する施設と事業等の視察について、事前

に説明を頂きました。

二日目の全酪連酪農技術研究所においては施設内を見る機会がない貴重な視察となったため、六〇名弱の参加者が集まりました。今年度より新たに開始した若齢預託事業について、施設や飼養管理等、直接見ながら酪農家さんたちが直接と取り入れられる方法やDIYについて、質問しながら熱心に話を聞いたり、質問したりしていました。

今回は、福島県での開催ということで、県内各地より参加頂くとともに、熱心に研修に参加されておりました。また、懇親会の場では、県南支所の矢内利幸さん、美希さんご夫婦が所属する石川吹奏楽団により演奏を頂くなど、今回の研修会を盛り上げて頂きました。



平成28年度 県北支所組合員研修会が 開催される

ながめの宿 光雲閣
にて行われた県北
支所組合員研修会
の様子



十一月二十五日(金)に、二
本松市「ながめの宿 光雲閣」
において、平成二十八年度県
北支所組合員研修会に三五名
が参加し開催されました。



研修会においては、県北支
所 國分氏、県北酪農指導所
平尾氏、三横氏が、それぞれ
が業務面での様々な取り組み
や今話題のテーマをまとめ、
発表頂きました。
その後の懇親会では、参加
された皆さんと様々な情報交
換するなど、活気にあふれた
ひとときとなりました。

最初に、安齋運営委員長よ
りあいさつを頂き、九月に開
催された「ふくしま酪農まつ
り」について、事業報告、さ
らに会場で実施したアンケー
ト、来年度に向けてについて、
高野 支所長より報告頂きま
した。

県中酪農ヘルパー利用組合 箭内正美さんが表彰される!!



左端前列 表彰を受けた箭内 正美 さん
平成二十八年十二
月七日(水)一般社団法
人酪農ヘルパー全国協
会の主催で平成二十
八年度酪農ヘルパー事
業中央研究会が開催
されました。そこで、県
中酪農ヘルパー利用組
合から箭内正美さん
が、平成二十八年度一
般社団法人酪農ヘルパ
ー全国協会会長表彰

を受けました。表彰内容は、酪農ヘルパーとして優れた技
術を持ち、五年以上勤続した功績からでした。
箭内さんは、平成六年十月、阿武隈高原酪農ヘルパー利
用組合設立時に専任ヘルパーとして就業しました。県中酪
農ヘルパー利用組合に合併した現在も広域で稼働しなが
ら、主任として若手の技術指導にもあたっています。元々
酪農家の長男だった為、酪農に関する知識・技術は高く、
機械全般にも詳しいことから、酪農家からの信頼も厚い
方です。

また、同研究会では、基調講演や優良事例発表も行わ
れました。基調講演では、ヘルパーの観点からの家畜防疫対
策について講じられました。事
例発表では、ヘルパーから酪農
家に転身した方やヘルパー要
員と同時に利用組合の事務
局も務める方、また、平成二
十八年四月の熊本地震発生
当時ヘルパーとして稼働して
いた方の体験談が発表され
ました。



平成28年度海外酪農研修事業 ヨーロッパ酪農視察研修9日間へ参加！！



左から、二瓶 智美さん、木目澤 初実さん

平成二十八年度海外酪農研修事業において、九月四日(日)～十二日(月)の日程で、「ヨーロッパ酪農視察研修9日間」へ宗像実代表理事組合長、県南支所(県南酪農研究会所属)二瓶 智美さん、木目澤 初実さんが参加して参りました。

この度、ヨーロッパ酪農視察を終えての報告書を頂きましたので、先月号の二瓶さんに引き続き、今月号は木目澤さんの報告を掲載いたします。

オランダに到着し、バスの車窓から見えるアムステルダム市内の風景は、運河沿いに建ち並ぶレンガ造りの細長い建物が私の想像していたヨーロッパの街並みそのものでした。視察先に向かう途中、高速道路沿いに広がる放牧地をよく見ると、草地が水路で区切られていて牧柵がほとんどなく、舟に乗り放牧地に向かう牛たちの姿が

私のヨーロッパに対するイメージは、古いものを大切に使い、環境への関心が強い国々というものでした。酪農の発祥地であるヨーロッパで営まれている酪農は、所有する農地に合わせて規模がそれほど大きくなく、アニマルウェルフェアという考えが生まれた所で畜舎内の設備や飼養方法が家畜の快適性に配慮されているイメージがあります。また、牛などの家畜が畜舎内で一日を過ごすのではなく、放牧されてのびのびと過ごす牧歌的な風景が私の想像するヨーロッパの酪農でした。私はそんなヨーロッパの酪農に憧れ、いつか必ず訪れてみたいというのが学生の頃からの願いでした。

ヨーロッパ視察研修報告

木目澤 初実

見えました。「牛つて舟で運ぶものなの!？」と、一緒に参加した二瓶さんと車窓に広がる光景に大興奮でした。

一軒目の視察先コープマン・チーズ工場では、一九八五年からチーズを生産、販売していて、五年前から息子さんが牛の管理を任されています。二台の搾乳ロボットがあるおかげで、約一〇頭の乳牛をほとんど一人で管理できるんだ。」と言っていました。EUでは、農場の責任者になるために、酪農か環境に関する六年制の専門学校を卒業しなければならず、息子さんは酪農の専門学校を卒業したそうです。コープマン・チーズ工場のチーズは、昔から作ってきたブランド力が強みで、最近では



研修記録



見学した施設



ヨーロッパの牛たち



オランダ国外での消費量が増えていると言っていました。二軒目のドウイネフェルト酪農場では、乳牛とベルジャンブルーという品種の肉牛を飼っていました。この農場では、飼料に副産物をたくさん使っていて独特の匂いがありました。集乳は三日に一度で、アジアやアフリカ向けの粉ミルクに加工する工場に出荷しています。ベルジャンブルーという肉牛は、筋肉がとても発達していて自然分娩が難しい品種で、ムキムキの体に驚きました。三産前後の経産牛を日本円で約二〇万円で購入、四カ月間肥育し、週に五頭程を業者が来て一頭当たり約三〇〜四〇万円で買い取っていくそうです。ドイツに移動し、三軒目の視察先カール



&ミハエル農場では、機械化による省力化で三三〇頭の乳牛を少数で管理していました。私が驚いたのは、五、〇〇〇トンの糞尿や残飼が入るバイオガスプラントと、大きなバンカーサイロがいくつもあることでした。また、牛舎も管理や観察がしやすい構造になっていました。ミハエルさんによると、牛舎はできる限り西日が入らないように建てられていて、空気を攪拌させるためのファン以外は自然換気で換気しているそうです。スイスのナッシュユバウム酪農場では、ジンメンタールという牛を初めて見ました。この牛はジンメンタールという谷の名前に由来していて、谷の急斜面を歩くことのできる脚のしっかりした牛だそうです。この農場では、アニマルウェルフェアの考えから除角せずに矯正器具で角の形を整える方法をとっていました。スイスといえば放牧酪農というイメージがありますが、組合から割り振られた頭数だけが放牧されていて、それ以外の牛は牛舎で飼っているということでした。また、急な斜面にも草地があり機械が入れない所では人の手で作業するので、とてもたくましい手をしていました。イタリアのカリーシナ・グッツァファアメ・チーズ工房のあるミラノは、今までの視察先と比べて気温高くと蒸し暑さを

研修記録



研修先でいただいたもの

感じましたが、たくさんの扇風機があり天井までコンクリートで造られているためなのか、気温のわりには暑くなかったような気がします。この農場は子供の教育を目的としたアグリツーリズムをやっている、チーズ工房やレストラン、直売所があり、そこで扱われている物の三〇%が農場内で生産された物、四〇%が地域内で生産された物でなければいけません。そのため、乳牛のほかにアンガスやリムジン、ホルスタインのオスを

肥育していて、レストランで提供したり直売所で販売しているそうです。

四カ国五軒の酪農家を視察し、乳価が日本円で三〇〜四〇円と日本の約半分で、補助金を貰うために餌に混ぜる物や牛舎内の清掃など色々な事に取り組んでいると言っていました。特に搾乳室は、どこもキレイでした。また、涼しくカラッとした空気、飼料を自給できるだけの草地など、「こういう所だから酪農が始まったのかな」と思うことがたくさんありました。視察先だけでなく、各国のスーパーの牛乳コーナーに対するチーズなど加工乳製品コーナーの広さや品数は、ヨーロッパでは昔から生乳を加工利用してきた事がよくわかるものでした。

スイスでのハイキングやイタリアの教会で見たミサの様子、ドイツで食べたソーセージなど視察研修以外にも様々な体験をすることが出来ました。そして、一緒に参加した皆さんとは初めて会う人ばかりにもかかわらず、女性参加者で女子会をしたり、年齢や職業を越えて楽しく交流することができ、楽しい思い出がたくさん出来ました。本やテレビで見ただけではわからない、自分の目で見て肌で感じた九日間の体験は、私にとってとても貴重な体験でした。

乳牛頭数調査集計表（公共機関を含む）

2016年11月30日現在

区 分	酪農家戸数			乳 牛 頭 数									
	戸数 (避難戸数)	前年度 戸 数	前年比	育成	初妊	経 産 牛				合計	前年度 頭 数	前年比	1戸当 り頭数
						乾乳 妊娠	妊娠 搾乳	空胎 搾乳	小計				
県 北 支 所	(7)20	24	83.3	309	51	169	454	648	1,271	1,631	1,368	119.2	81.6
安 達 事 業 所	21	22	95.5	88	46	56	104	294	454	588	629	93.5	28.0
県 中 支 所	29	30	96.7	141	73	96	164	484	744	958	957	100.1	33
田 村 事 業 所	25	28	89.3	31	8	19	47	167	233	272	314	86.6	10.9
小 野 事 業 所	25	27	92.6	53	24	57	97	201	355	432	461	93.7	17.3
会 津 事 業 所	8	9	88.9	74	25	34	68	130	232	331	312	106.1	41.4
浜 支 所	(34)10	11	90.9	79	26	23	48	121	192	297	348	85.3	29.7
県 南 支 所	50	57	87.7	607	282	298	620	1,160	2,078	2,967	3,146	94.3	59.3
JAふくしま未来(飯館)	(11)0	0	0.0	0	0	0	0	0	0	0	0	0.0	0.0
県 酪	188	208	90.4	1,382	535	752	1,602	3,205	5,559	7,476	7,535	99.2	39.8

区 分	月 別 分 娩 予 定 頭 数							販 売 乳 量				
	2016 12月	2017 1月	2017 2月	2017 3月	2017 4月	2017 5月	2017 6月	牛乳 出荷 戸数	地域別販売乳量		1日1頭当り乳量	
									1日当り	1日1戸 当り	搾乳牛	経産牛
県 北 支 所	109	108	95	105	70	70	117	20	26,303	1,315	23.9	20.7
安 達 事 業 所	39	33	29	31	23	20	31	21	10,455	498	26.3	23.0
県 中 支 所	55	47	52	56	34	35	54	29	15,849	547	24.5	21.3
田 村 事 業 所	15	11	10	10	11	6	11	25	4,642	186	21.7	19.9
小 野 事 業 所	28	33	25	24	26	27	15	25	7,827	313	26.3	22.0
会 津 事 業 所	15	26	18	16	15	9	28	8	4,566	571	23.1	19.7
浜 支 所	21	7	14	15	11	19	10	8	3,963	495	23.4	20.6
県 南 支 所	173	175	151	160	144	160	237	50	48,450	969	27.2	23.3
JAふくしま未来(飯館)	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0.0	0.0
県 酪	455	440	394	417	334	346	503	186	122,055	656	25.4	22.0

平成28年度受託乳量の状況

平成28年11月の受託乳量は、県全体で前年比102.3%の実績でありました。

団体別の受託乳量は、本組合が3,663トﾝ、前年比105.1%（対前年同月177トﾝ増）、全農県本部は1,858トﾝの対前年比97.2%（対前年同月52トﾝ減）の実績で

ありました。

東北生乳販連の受託実績については、前年比98.6%となりました。

なお、全国の受託実績は対前年比98.3%であります。（北海道：97.9%、都府県98.8%）

平成28年度用途別販売乳量の状況（東北全体）

11月の東北全体での用途別販売状況については、学乳向けが102.3%上回り、飲用向けが99.5%（全国の前年比99.9%）、醗酵乳向けは98.8%（全国の前年比100.3%）、加工乳向けは前年比89.0%（全国の前年比95.1%）、生クリーム向けは96.8%（全国の前

年比100.6%）、チーズ向けは74.7%（全国の前年比86.4%）と前年を下回り推移した。

なお、今月の当組合酪王乳業での生乳使用量は日量平均45.4トﾝで、本組合生産量の37.2%、県全体生産量の24.7%を処理しています。

平成28年度月別支払乳価表

11月分支払乳価については、現在のところ加工向け飲用向け共に価格据え置きで取引されており前年対比で大幅な乳価増減は有りませんでした。プール乳価、補給金単価合せて前年より34銭下回る単価となりました。

■東北全体プール乳代金 4,223,295千円 単価106.637円
 ■内 福島県分プール乳代金① 515,405千円 単価106.637円
 プール対象外乳代金② 100,165千円
 (学乳向け・買取向け乳代金)
 合計乳代金①+② 615,570千円 単価111.488円

項目	28年11月	前年同月	増減	前々年同月
プール乳価	105円673	105円908	-0円235	103円054
補給金単価	0円844	0円951	-0円107	0円946
合計	106円517	106円859	-0円342	104円000

(注)上記合計は、脂肪率3.5%・無脂固形率8.3%の補給金込みの乳価。

(東北全体11月)

用途別	販売乳量(ト)	日量(ト)	前年比(%)
飲用向け	29,422	949.0	99.5
加工向け	2,828	91.0	89.0
学校給食向け	2,869	93.0	102.3
醗酵乳向け	5,498	177.0	98.8
生クリーム向け	1,646	53.0	96.8
チーズ向け	210	7.0	74.7
全乳哺育向け	1	0.0	100.0
合計	42,474	1,370.0	98.6

団体別受託乳量の状況

団体名	11月分		
	受託乳量(ト)	日量(ト)	前年比(%)
県酪協	3,663	118.2	105.1
全農福島県本部	1,858	59.9	97.2
合計	5,521	178.1	102.3
東北生乳販連	42,474	1,370.1	98.6
全 国	555,628	17,923.5	98.3

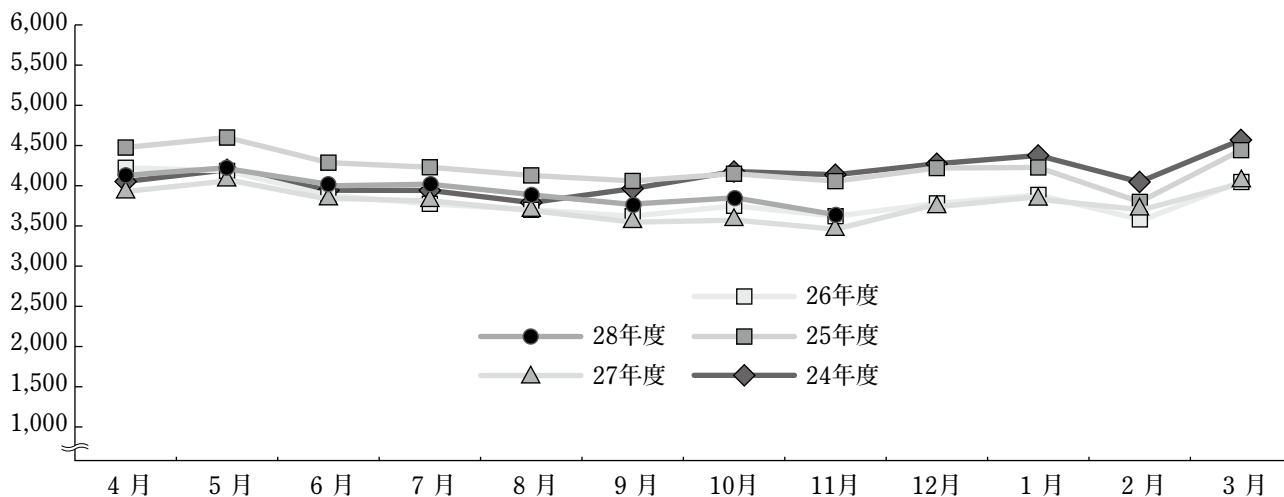
備考

1) 買取乳量を除く

月別受託乳量 県酪協 (トン)

年度	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
24年度	4,052	4,200	3,943	3,913	3,790	3,964	4,178	4,110	4,273	4,373	4,054	4,569	49,419
25年度	4,476	4,605	4,287	4,231	4,129	4,062	4,149	4,053	4,219	4,276	3,807	4,343	50,637
26年度	4,148	4,185	3,879	3,775	3,703	3,621	3,749	3,620	3,781	3,886	3,577	4,035	45,959
27年度	3,921	4,061	3,836	3,802	3,658	3,513	3,575	3,486	3,668	3,830	3,708	4,071	45,129
28年度	4,094	4,231	4,025	4,028	3,894	3,717	3,839	3,663					
前年比%	104.4	104.4	104.9	106.0	103.8	105.8	107.4	105.1					

単位・トン



年次別・月別支払乳価一覧（補給金を含む）

年度	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	平均
28年度	105.156	106.012	106.878	105.825	104.876	107.459	107.162	106.517					
27年度	105.116	105.882	106.888	105.964	105.240	107.090	107.342	106.859	106.298	105.468	106.726	104.446	115.756
26年度	100.739	102.193	103.829	102.826	101.978	104.278	104.043	104.000	102.000	102.606	103.222	101.321	112.094
25年度	96.846	98.345	99.659	98.837	97.220	99.688	102.698	102.627	100.215	100.738	101.861	99.542	108.934
24年度	96.446	97.780	99.371	98.530	97.817	100.446	99.772	99.452	97.324	97.231	97.699	95.806	107.061

第254回 県酪協乳牛市場成績

平成28年12月13日開催

購買者数 35名（うち県外13名）

区分	畜種	雌雄	成立数 (成立率)	最高価格 最低価格	平均価格 (前回比)	平均体重 (前回比)	平均単価 (前回比)	
ET和牛 初生牛	ET和牛	メス	6 (100)	579,000 389,000	472,500 (90)	101 (109)	4,694 (83)	
		雄	31 (97)	703,000 396,000	568,032 (93)	108 (101)	5,249 (91)	
	乳牛	メス	2 (100)	48,000 33,000	40,500 ()	54 ()	757 ()	
		雄	42 (100)	171,000 6,000	126,714 (105)	74 (97)	1,701 (107)	
	交雑牛	メス	78 (99)	330,000 60,000	223,000 (97)	70 (95)	3,180 (102)	
		雄	90 (100)	373,000 5,000	306,300 (94)	77 (100)	4,000 (94)	
	初妊牛			25 (100)	971,000 641,000	734,720 (110)		
	搾乳用雌子牛			17 (100)	436,000 268,000	385,471 (112)		

価格：円（落札価格） 率・比：% 体重：kg

初生牛の畜種別価格帯每分布表

（0は0.1～0.9万円、1は1.0～1.9万円、以下同様。尚、落札価格です）

畜種	雌雄	価格帯(万円)																																			
		<42	43	44	45	46	47	48	49	50	51	52	53	54	55	56	57	58	59	60	~	66	67	68	69	70											
ET和牛	メス	1	1	1				1	1								1																				
	雄	2	1	1		2		1	1	3		1		1	4	2	2					1		1	7	1											
畜種	雌雄	価格帯(万円)																																			
		0	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20	21	22	23	24											
乳牛	メス				1	1																															
	雄	1	2			1				2		4	5	3	3	3	10	7	1																		
畜種	雌雄	価格帯(万円)																																			
		<13	14	15	16	17	18	19	20	21	22	23	24	25	26	27	28	29	30	31	32	33	34	35	36	37											
交雑牛	メス	3	3	1	1	1	6	5	8	9	12	1	4	4	5	8	2	2	1	1		1															
	雄	3		1			1				1		4		2		5	9	11	10	6	11	14	11		1											

初妊牛・搾乳用雌子牛の価格帯別分布表

価格帯(万円)	60	61	62	63	64	65	66	67	68	69	70	71	72	73	74	75	76	77	78	79	80	81	82	~	97
初妊牛					1	2	1	1	1	2	2	3	3	1	3	2		1					1		1
価格帯(万円)	<20	21	22	23	24	25	26	27	28	29	30	31	32	33	34	35	36	37	38	39	40	41	42	43	44
搾乳用雌子牛						1							1	2	1	1			1		1	3	4	2	

組 合 の 動 き 12 月

12月1日	らくのう乳販取締役会	12月21日	JAグループ農畜産物損害賠償県協議会臨時役員会・総会
12月2日	やまびこ会第57回県農業賞受賞祝賀会	12月26日	東北生乳販連第1回指定団体機能強化推進委員会
12月8日	福島県獣医師会理事会	12月26日	福島県農業会議常設審議委員会
12月9日	全国酪農協会三役会・建設委員会合同会議	12月27日	第9回経営検討会
12月13日	乳牛セリ市場	12月27日	第6回再建検討委員会
12月15日	第1回生産委員会		

理 事 会

第8回 12月22日

議 案

- | | | | |
|-------|-------------------------------------|-------|----------------------|
| 議案第1号 | 育児・介護休業法改正に伴う就業規則の改正について | 議案第5号 | 混合飼料製造施設の飼料中継基地化について |
| 議案第2号 | 育児・介護休業法改正に伴う「育児・介護休業に関する規則」の改正について | 議案第6号 | 組合員資格変動届のお知らせについて |
| 議案第3号 | 育児・介護休業法改正に伴う育児・介護休業に関する労使協定の締結について | | |
| 議案第4号 | 妊娠・出産・育児・介護等に関するハラスメントの防止措置について | | |

報 告 事 項

- 1) 酪農ヘルパー利用組合の合併推進について
- 2) 今後の日程について

生乳生産効率化支援研修会



～ICTを活用した発情発見・長命連産性を高めるために～

講演
1

「ICTや複数のセンサを活用した牛の発情発見システム」

講師 農研機構東北農業研究センター 生産基盤研究領域
作業技術グループ 上級研究員 福重 直輝 氏

「牛の監視が不十分になり、種付けのタイミングを逸してしまう。」
「経営規模を拡大したいが、繁殖管理に係る負担が増大する。」

これらの問題を解決するため、発情発見システムを開発。
リアルタイムに牛の行動を監視でき、計画的な人工授精につなげる。

日時 平成29年2月1日(水)
13:00～15:00 (受付12:30～)

場所 日本全薬工業株式会社 研修ホール
郡山市安積町笹川字平ノ上1番地の1
電話024-945-2300 (代表)



講演
2

「ウシのきもち、ヒトのきもち」

講師 元ちばNOSAI連家畜診療所
獣医師 山下 厚 氏

人のために黙々と働くウシたちの目線から、費用対効果の高い分娩房の設置、病気を作り出している牛床など子牛の損耗事故防止や繁殖成績の改善など長命連産性を高めた酪農経営・飼養管理方法を紹介。



お問い合わせ
福島県畜産課 電話 024-521-7365

バイエル子牛の健康講座 おしえて！ウッシー先生⁽²¹⁾

冬真っ只中ですね。今月号からは寒冷環境下における子牛の体温について考えていきたいと思います。

言うまでもなく哺乳子牛は成牛に比べて寒さに弱いです。理由として子牛は体重あたりの体表面積が大きいこと、ルーメンの発達が未熟なので熱産生量が小さいことなどがあげられます。生み出される熱の量が少ない一方で放散される熱の量が多いということです。子牛は気温が15℃以下になると寒冷ストレスを感じはじめると言われていました。

さて、出生直後から子牛の体温の推移について調べた報告がありますのでご紹介いたします。出生した子牛を直ちに母牛から隔離し、ぬれたからだはタオルで拭いて25℃に保たれた快適な環境に移しました。そして生まれてから1時間後に初乳を給与しました。生後144時間(6日間)までの体温の変化を表したものが下の図です。



ウッシー先生

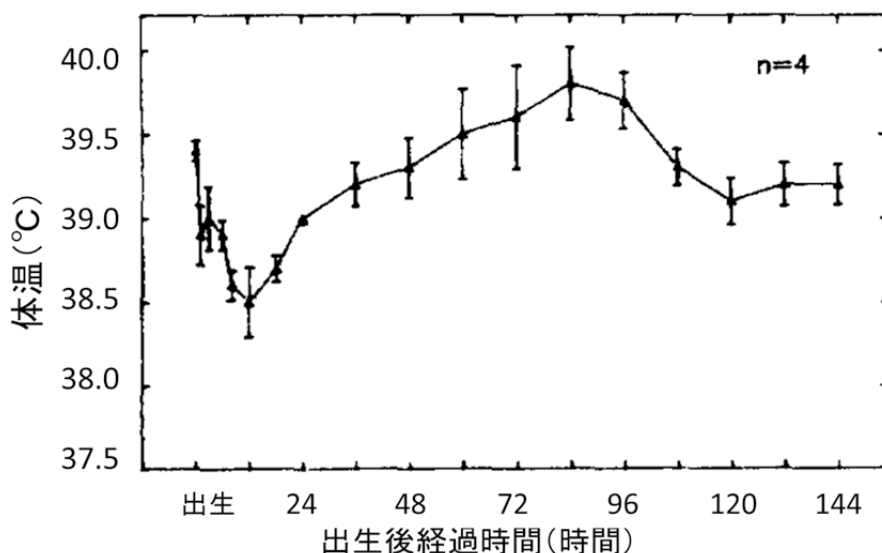


図 出生～生後144時間までの体温の変化

Journal of Dairy Science Vol. 74, No.7, 1991

生後12時間以内に一時的に体温が低下しましたが、その後は上昇していることがわかります。子牛は寒さが苦手であることは前述のとおりです。しかし、生まれたばかりの子牛は「かまど」の役割を果たす「褐色脂肪細胞」という細胞を多くもっています。この「かまど」は初乳中の乳脂肪を燃料として熱を発生させるので子牛は体温を上げることができるのです。初乳製品を使用する場合、燃料となる乳脂肪が18%以上含まれていることが望ましいと言われています。



バイエル薬品株式会社

動物用薬品事業部

〒981-3133

仙台市泉区泉中央1-14-1 インテレクト21

TEL (022)776-0271

ZENOAQ コーナー Vol.145



～ビタミンのお話し～

〒963-0196
 福島県郡山市安積町笹川字平の上1-1
 日本全薬工業(株) 福島営業所
 TEL024-945-2306 FAX024-945-9345

***** 各種ビタミンの主な働き *****

ビタミンA

正常な視覚に不可欠⇒欠乏症:夜盲症。骨の発達や粘膜(鼻腔・腔...)の維持。繁殖機能を助ける。β-カロチンから酵素によってビタミンAに転換される。この酵素には銅が含まれている為、銅の欠乏はビタミンAの欠乏につながりやすい。また、飼料中の硝酸塩もビタミンAと結合し、ビタミンAを無力化する。

ビタミンD

日光浴(紫外線)が皮膚でのビタミンD合成を刺激する。小腸でのカルシウムとリンの吸収を刺激する。生体内で働く為には活性型ビタミンD₃となる必要がある。

ビタミンE

セレンと共に生体内で「抗酸化作用」を示す。特に細胞レベルでの十分な免疫機能を維持するのに必要。不足すると、

繁殖障害⇒受胎率低下・胎盤停滞・卵巣のう腫
 感染症⇒乳房炎・高体細胞

などのリスクが高まる。

乳牛のステージ	ビタミンA IU/日		ビタミンD IU/日		ビタミンE IU/日	
	NRC(2001)	ロシュ社推奨	NRC(2001)	ロシュ社推奨	NRC(2001)	ロシュ社推奨
泌乳牛	75,000	100,000~150,000	21,000	30,000~50,000	545	500~1,000
経産牛の移行期	100,000	75,000~100,000	25,000	25,000~30,000	1,200	1,000~3,000
乾乳牛	80,000	75,000~100,000	22,000	25,000~30,000	1,168	1,000~3,000
初産牛の移行期	75,000	75,000~100,000	20,000	25,000~30,000	1,200	1,000~3,000
育成牛	36,000	50,000~70,000	13,500	5,000~7,000	360	500

参考資料としまして、ビタミンA、D₃、Eの乳牛のステージ毎の要求量(NRC飼養標準)と推奨値(ロシュ社推奨)の一覧表を掲載致しました。

経産牛の移行期=経産牛の分娩前2~3週間から分娩後2週間

初産牛の移行期=初産牛の分娩前3~4週間から初産の産褥期

…を示します。NRC飼養標準ではビタミンAとD₃の要求量において両者に差を設けているようです。

ロシュ社の推奨値がNRC飼養標準の要求量よりも高めなのは、より戦略的な考え方によるものです。

特に移行期におけるビタミンEの給与量については、ZENOAQからも3,000IU/日を推奨いたします。

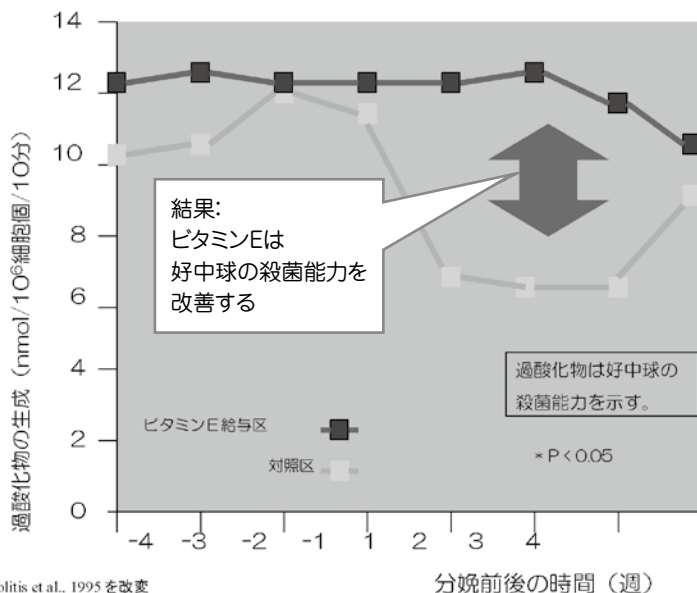
ビタミンの要求量

ビタミンをはじめ微量ミネラルなどはいわゆる欠乏症が知られています。したがって、その要求量も欠乏レベルを超えるという発想にとらわれがちです。欠乏しなければ良いという考えには賛成しかねます。日本飼養標準やNRC飼養標準などを見るとそこには各種ビタミンの必要量(推奨量)が掲載されています。

ビタミンの要求量を決める最も良い方法はその動物の「免疫能力」がビタミンの不足によって損なわれるレベルを見つけることです。この方法で考えると、現在の推奨量よりもビタミンAの要求量は1.5倍、ビタミンEの要求量は5倍(乾乳牛では7倍)にもなると考えられています。

免疫抑制と乳牛の健康

対照区とビタミンE給与区の乳牛の血中好中球による過酸化物の生成



Politis et al., 1995を改変

◎ゼノアックビタミンシリーズ ※愛用頂いているほんの一部

DCガードSP ペレット



ビタラップ101



ビタラップ63



平成27年度 牛乳・乳製品利用料理コンクール 福島県大会入賞レシピ



福島東稜高等学校
佐藤 志帆さんの作品

豚肉の南瓜包み ～鶏ガラと野菜入りソース添え～



●●● 材 料 ●●●

(材料:4人分)

・豚肉 ……………260g	・ミニトマト …… 40g	・水 …………… 150cc
・南瓜 ……………170g	・ブロッコリー … 40g	・鶏ガラ …………… 5g
・チーズ ……… 50g	・油 …………… 10g	・麺つゆ ………60cc
・牛乳 ……………200g	・塩 …………… 少々	・片栗粉 …………… 8g
・人参 …………… 40g	・こしょう ……… 少々	

●作り方

- ① 南瓜を牛乳で柔らかくなるまで煮る。
- ② 柔らかくなったら火を止め、チーズを入れて滑らかになるまでつぶす。
- ③ ベーコンに②を包み、その上から塩・こしょうをした豚肉でさらに包む。
- ④ フライパンに油をしき、肉をのせてしっかり焼く。
- ⑤ 鍋に水150ccと鶏ガラを入れ煮立たせる。

- ⑥ ブロッコリーは茹でて、人参は型を抜いておく。
- ⑦ ⑤に麺つゆを入れ、煮立ったらとろみをつけてから野菜を入れて火が通ったら止める。
- ⑧ ④を皿にのせて、⑦を上からかける。

ポイント

南瓜を牛乳で煮込みチーズを混ぜたところ。

福島県酪農協主催

飼料用米利用現地研修会の開催について

お知らせ

近年の穀物相場の変動に対応すべく、飼料自給率向上の取り組みとして直接支払交付金による生産助成が行われ、飼料用米生産面積が急激に増加しています。

今後の飼料用米について、新規の利活用を図るための知見を深める為、現地視察研修会を下記日程で開催致しますので、ふるってご参加下さいませようお願い致します。

日 時

平成29年
1月27日(金)
午後1時30分より

場 所

(株)アグリジャパン大玉
安達郡大玉村玉井字反田44
※現地集合(出来る限り乗合せ願います)

講 師

(株)アグリジャパン大玉
代表取締役 佐原洋一郎氏
(講師補助: 県北酪農指導所 平尾 修)

内 容

飼料用米の流通・加工体系の説明及び
乳牛への給与方法に対する現地研修

その他

参加者には
粉碎飼料米のサンプル
(40kg程度)を提供します。

申 込 期 限

平成29年
1月20日(金)
各支所へ申し込み下さい。

※なお、詳しい内容や、参加についての申し込みは、各支所へお問い合わせ下さい。

発行者 福島県酪農協同組合 発行責任者 常務理事 岡 正宏

〒969-1103 福島県本宮市仁井田字一里壇17番地 TEL 0243-33-1101 FAX 0243-33-1103 URL <http://www.milk.fukushima.jp>